

# デジタル技術で障害者支援

## 熊本高専生 成果発表

研究フォーラム

全国の高専が開発した、障害者らの生活をサポートするデジタル技術について報告するフォーラムが24日、オンラインであり、熊本高専の学生が日頃の研究成果を発表した。

フォーラムは全国の高専でつくる全国KOSSEN支援機器開発ネットワークなどが技術の共有と若手技術者の育成を目的に毎年開催。7校が参加した。熊本高専熊本キャン

パス（合志市）からは3組が報告。制御情報システム工学科5年の長岡翼さん（19）は、重度身体障害者が意思を伝える際に利用する視線入力への負担を減らすため、排せつや食事などのアイコンを選択するだけで介護者に知らせる仕組みを作った。

専攻科2年の小西隼

太さん（22）は、高齢者らの話を傾聴・応答するシステムを開発。相づちだけでなく、会話を提案するなど約230万通りのやりとりを実現した。発達障害児向けに、聞き取りたい人の音声だけを拡大するスピーカーの発表もあった。

フォーラムは23日から3日間あり、最終日は障害のある当事者や特別支援学校の教員らと交流し、現場の課題を共有する。

（深川杏樹）



傾聴システムについて発表する熊本高専専攻科2年の小西隼太さん＝合志市